

## 『北方圏学術情報センター年報』の創刊号に寄せて

著者	遠藤 知恵子
雑誌名	北翔大学北方圏学術情報センター年報
巻	1
発行年	2009
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00001145/">http://id.nii.ac.jp/1136/00001145/</a>

# 『北方圏学術情報センター年報』の創刊号に寄せて

北翔大学 学長 遠 藤 知恵子

この度『北方圏学術情報センター年報』の創刊号を発刊することとなりました。

北方圏学術情報センター（愛称「ポルト」）は、人間福祉学部付設の「北方圏生活福祉研究所」については20年度より、生涯学習システム学部付設の「生涯学習研究所」については21年度より統合し再スタートすることといたしました。研究成果の発表媒体である年報についても一本化し『北方圏学術情報センター年報』とすることといたしました。もともと北方圏学術情報センターは、大学院を持つ大学の研究施設として2002年文部科学省の学術フロンティア推進事業の指定を受け建設されました。このセンターを拠点に、「北方圏住民のQOLの向上に関する総合的研究」をテーマとする研究がスタートいたしました。センター規程では、「生活福祉・生活文化の向上を目的として、生活環境〈衣食住〉、地域福祉、心の健康、生涯学習としての芸術などの分野について、総合的かつ学際的な視点から研究を行う」こと、同時にそれらの研究成果を「広く社会に還元すること」を目的とするとされています。上記の学部付設両研究所は、それぞれの学部を新設するに当たって、新学部の母体となるべく1995年と1997年に設置されましたが、その目的は、その後2002年度に設置された北方圏学術情報センターの目的ともほぼ重なることから発展的に統合し、全学的な研究センターとして充実を図ることとなりました。19年度で閉所となった北方圏生活福祉研究所の年報は第13号、20年度で閉所となる生涯学習研究所の研究紀要は第12号をもって廃刊とし、『北方圏学術情報センター年報』に引き継ぐことになります。

両研究所とも社会とのつながりを重視してきましたが、それを受け継ぎ、社会に還元できる研究、そして大学と地域の新たな関係の構築に向けた研究活動を、学外の研究員をも含め行っており、その新たな第一歩が今回の創刊号に結実することとなりました。今後、このセンターを中心に、より学際的な研究がすすみ、北国の生活の質の向上に資する研究がますます発展していくことを願っております。そして、ポルト〈港〉の名称が示しているように地域文化の拠点として機能し、地域に貢献できる研究センターとして発展していくことを期待しております。